

第3回【感情面の提案】
コミュニケーションで円満相続を実現しよう

家族に
お・も・い・や・り
お・も・い・や・り
相続



相続コーディネーターの創始者であり、1万2000件超の相続相談に対処。感情面、経済面に配慮した“オーダーメイド相続”を提案、家族の絆が深まる「夢相続」の実現をサポートしている。(株)夢相続代表取締役。「相続はふつうの家庭が一番もめる」(PHP研究所)など著書25冊出版。TV出演、雑誌取材など多数あり。

公認不動産コンサルティングマスター
相続コーディネーター
夢相続 代表取締役 曾根恵子

生前に意思の明確化を

人生の締めくくりに 本人の意思が大事

相続になると相続人の方々の人柄や家族の人間模様まで隠すことができないう事態になることもあります。亡くなった方の意思が見えないと相続人はそれぞれ自己主張をし、相手を責め、長年の不平や不満をぶつけ合う場となるのです。どんなに立派な方でも最後の締めくくりがそんな状態では、感謝や尊敬の念もなくなり、その方の評価も、残された家族の評価も半減するというものです。

相続を円満に乗り切る コミュニケーションを

そんな悲惨な結末を招かないよう、節

税などの経済面だけではなく、家族の感情面に配慮した自分の意思を明確にして生前対策をしておくことが必要になります。そうした配慮や対策ができると、相続は家族の絆を再認識できる貴重な機会となるはずです。

そのために次のようなことに留意しておきましょう。

- 普段から親子、きょうだいのコミュニケーションを取っておこう。いざとなつてからでは円満にいかない
 - 財産や生前贈与はオープンにしておこう。隠し事があるともめてしまう。
 - 寄与や介護の役割分担の情報共有をしよう。一方的な主張が平行線になる。
 - 遺産分割でもめないように配慮のある遺言書を残しておこう。もめたら悲惨。
- 以上のいずれも本人の意思や決断によりできることだと言えます。